



書評
[評者]
関根 祐介

東京医科大学病院薬剤部

ジェネラリストのための これだけは押さえておきたい 皮膚外用療法

安部 正敏 著

●A5 頁276 2023年4月

定価：4,620円(本体4,200円+税10%)

[ISBN978-4-260-05023-4] 医学書院刊



外用療法の歴史は古く、人類が疾病を認識した時代より使用され続けています。直接患部へ投与量を調節しながら使用ができるため、利便性が高く、なじみ深いものと言えます。一方で、治療効果への不満や行為の不便さ、不快感、副作用への不安などの問題もあり、これらはアドヒアランスの低下につながるとされています。そのため、外用療法は、その特徴を理解し、適正使用を実施することが成功の鍵となります。

本書は、ジェネラリストにとって「これだけは押さえておきたい」外用療法について、外用療法に用いられる製剤の特性や疾患別の使用方法などが、わかりやすくまとめられています。特にお薦めするポイントを以下にまとめます。

◆外用療法の基礎と各製剤の特性

外用療法に用いられる製剤にはさまざまな剤形があり、それらは主薬と基剤から構成されています。主薬の役割も重要ですが、直接皮膚に接する基剤の役割も重要です。本書では、剤形や基剤の特徴が記載され、軟膏の混合処方についても解説されています。外用薬の各論として副腎皮質ステロイド薬・免疫調整薬・非ステロイド系抗炎症薬・抗ヒスタミン薬・抗菌薬・座瘡薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬・褥瘡潰瘍薬・抗悪性腫瘍薬・乾癬角化症薬などについて、製

品写真・特徴・使用方法・注意点などが解説されています。また、医薬品のみならず、保湿剤・創傷被覆材・日焼け止め・衛生材料などについても掲載されています。さらに、外用療法の使用法・固定方法も解説され、臨床に大いに役立つものとなっています。

◆疾患別の外用療法の使用方法

乾燥肌、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性乾癬、丹毒・蜂窩織炎、白癬(水虫)、帯状疱疹・単純疱疹、褥瘡など23疾患の外用療法について、診断・治療のプロセスや処方例が解説されています。診断のプロセスとして、疾患の写真やその特徴、検査などがわかりやすく説明されています。治療のプロセスとして、全身療法・外用療法にとどまらず、生活指導やアドヒアランス向上のコツなども解説され大変有意義な内容です。処方例では全身療法・外用療法について、具体的な処方例が掲載されて、日常の診療に生かすことができます。また「安部の実践」として安部正敏先生の臨床現場でのコツを学ぶこともできます。

本書は、外用療法のエッセンスを短時間でつかめるように、読みやすく工夫されており、外用療法に携わるすべての方が、一歩進んだ実践をするために、お手元に常備いただきたい一冊です。